

## 大学情報サミットの活動内容紹介

大学情報サミットは2005年11月に明治大学情報科学センター所長阪井和男教授の呼び掛けにより始まった『6大学情報サミット準備研究会』が発端となり、2012年2月時点で慶應義塾大学・法政大学・明治大学・立教大学・早稲田大学の5大学で構成されている。

各大学の情報システム部門が単なる自大学のインフラの整備に留まらず、大学の目的である教育・学術研究をはじめとした広範囲な分野で連携を進め、定期的な勉強会の開催や年間を通じてのプロジェクト活動などを行なっている。これらの活動の成果を各大学だけでなく社会全体の発展に貢献する目的で、毎年度サミット大会を開催している。

本年度で第五回を迎えた大学情報サミット大会は「SNSの時代と大学情報基盤の役割」をテーマに掲げ、2011年12月5日(月)に法政大学 市ヶ谷キャンパス ボアソナードタワー26階 スカイホールで行なわれた。大学情報サミット関係者と一般企業や教育関係者を合わせ、100名を超える参加者となり、盛大に行なわれた。

基調講演にはジャーナリスト/メディア・アクティビストであり、著書『Twitter社会論』でも有名な津田大介氏をお招きし、「ソーシャルメディアは日本社会をどう変えるか?」というテーマで非常に興味深く、貴重なお話をお聞きすることができた。

開催校代表者講演は法政大学国際文化学部教授、国際文化研究科長の大嶋良明教授より「正課教育としてのスタディ・アブロードとソーシャルツール、オープンソースの実践的活用」をテーマにご講演いただくとともに、年間活動報告として代表幹事である法政大学総合情報センター事務局 市ヶ谷事務課 課長の松丸 伊三雄氏より報告が行われた。

また、本年度は下記3つのプロジェクトテーマを設定して各大学からの選出メンバーで活動を行ってきたが、今期の活動の成果報告として各プロジェクトから発表があった。

- 「大学教育でのICT利用者支援～ICT利用促進についての情報共有～」
- 「大学における情報漏えいを防ぐためには」
- 「情報系部門における新任者の育成について 2011」



<開催校代表者講演：法政大学 大嶋良明教授>